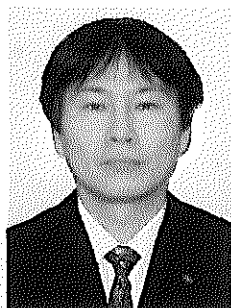


私のプロフィールと大阪府での仕事について

大阪府 都市整備部 下水道課 (S58) 下村 良希



この度は、京土会活性化ワーキングのメンバーに参加させていただき、また、『京土会OBと学生との懇談会』開催にあたり話題提供者としての機会もいただき、ありがとうございます。不慣れですが、私のこれまでの大阪府庁での経験から何か良いものを選んでお話ししたいと考えています。

それでは、簡単に私の経歴などをご紹介します。

○大阪府でのプロフィール

S57年豪雨災害を契機に、S58年（私が大阪府に入庁した年）に設置された、大和川支川の西除川・東除川の改修を時限的に進める南部特定事業建設事務所に配属されましたが、それ以降、河川・ダム関係の建設事業推進を図る業務に多く携わりました。余談になりますが、S57年災害の当日は、大阪市立大学での国公二次試験日で、大和川から溢水寸前となり電車が止まり、試験時間が遅れました。恥ずかしながら、当時は“災害”という意識も無く、翌年、府庁に入りその日にあった大和川対岸の大災害を初めて知りました。現在は、流域下水道事業関係の業務に携わっています。

私が携わった事業のひとつに安威川ダム建設事業があります。S47年災害を契機に計画策定されましたが、現在、本体工事着工に向け付替道路工事を進めています。地元の方との協議や地域整備に関する関係者協議などに、現場、本庁と9年間携わりました。大変だったという思いより、事業が一步一步進んで行くことを実感できたことから、多くの貴重な経験を楽しんできたように思います。特に感じたことは、ダムという反対意見の多い事業だったことでもあります。地元住民だけでなく、一般の方々への説明責任の大切さを知りました。

○大阪府での仕事

大阪府での土木職として携わる仕事の多くが、計画立案、設計、工事発注、現場の施工管理の流れの中で、自分で計画・設計したものが最後には、現場に道路ができ、河川が改修できます。タイミングもありますが、工事竣工時の楽しみを、味会えます。また、本庁では、予算関係の業務、事業推進などですが、大きな事業の方向性を考え、現場に示す必要があります。

少しPRさせていただくと、大阪府の土木には議論を尽くし決めた方針を、議論をしあつた者同士、一枚岩で組織としてやり抜く伝統があります。それ故に、難しい事業をやり遂げることができるのだと思います。また、最近は若手職員の意見を聞き、積極性を引き出すために、例えばトップの部長と若手の「元気何でもトーク」などの取り組みがされており、非常に風通しの良い組織だと思っております。

○最近思うこと

近年、限られた予算の中で、行政だけの力では、持続可能なシステムの構築が難しいことから、官、民さらに住民との連携を重視しています。例えば、行政が道路や河川でいくら環境整備をしても、あとの維持管理のフォローをしてくれる住民や企業がいなければ、ただのガラクタになってしまいます。現在、府でも多くの取り組みが試されており、徐々にではありますがうまく行くケースが、増えて来ています。これからは、情報も公開して住民にわかりやすく説明し、話し合い、信頼関係を築く力が行政には、求められています。